

ようこそ日本の深淵に。

のぞき見能楽堂

観世能楽堂

能に興味を持ってもらうために、
「銀座に能楽堂がある」事実を知ってもらいたい。

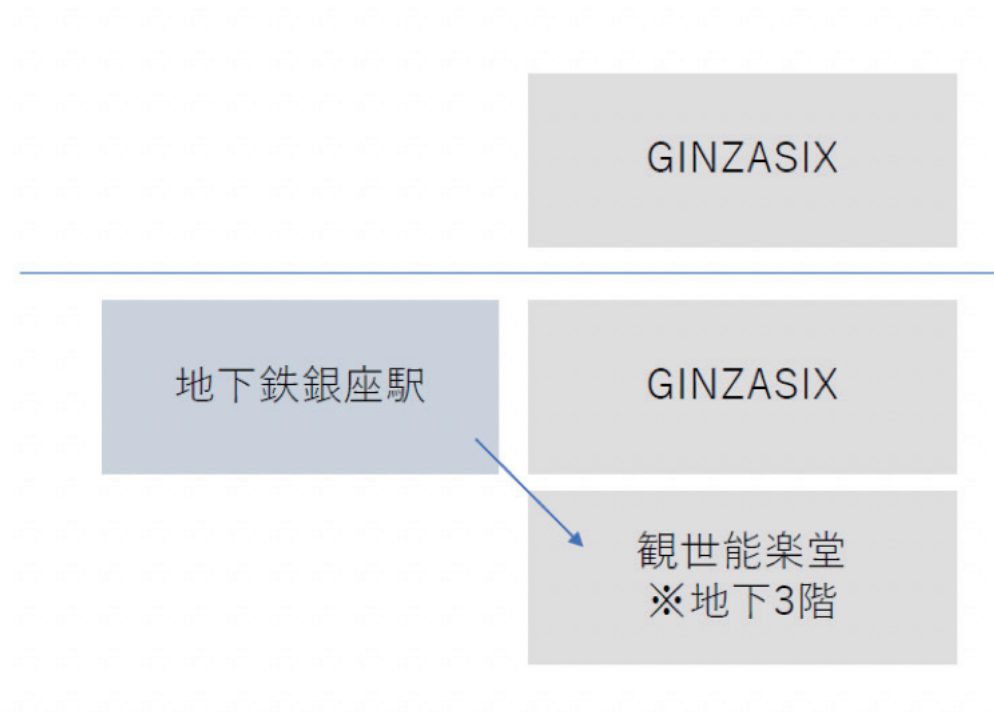


能を見られる場所が銀座にある、という事実それ自体が、興味・来場のきっかけになりうるもの。

銀座に能楽堂が存在することを知らない人に向けて、
存在をわかりやすく好奇心をくすぐる形で伝えたいと考えました。

「え、銀座に能楽堂があるの？」

「それも東京メトロのさらに地下に？」



そう、観世能楽堂が位置するのは GINZA SIX の“地下3階”。
地下鉄銀座駅から見ても、さらに深く潜った場所にあたります。

このオドロキを伝えるために、
実際に上から能楽堂をのぞいてもらいましょう。

「自分は地下鉄に乗るために地下にいるはず。しかし、そのさらに下では能が演じられている…？」

この一見ちぐはぐなファクトを、誰にでもわかりやすく興味をもってもらえる形で可視化します。

ピーヒャララ

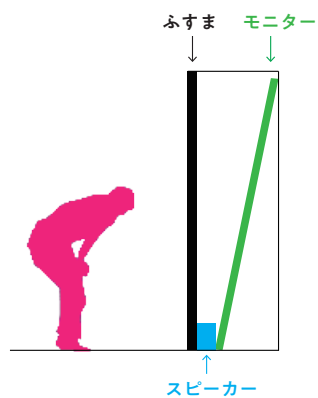


ようこそ日本の深淵に。
のぞき見能楽堂

銀座の改札内に突如現れた巨大なふすま。
軽妙な和の音に合わせて、裏で何やら人が動いています。



よく見ると、一箇所のみぞき見できるような隙間があり、
中には空間が。隙間はこのぞきたくなるのが人情というもの。



GINZA SIX B3F

観世能楽堂

ようこそ日本の深淵に。



少々の罪悪感を覚えつつのぞいてみると、そこには美しい能楽堂と、舞い踊るシテの姿が。
そう、今自分がいる場所からさらに地下深く、日本の深淵とも言える場所では、能が日夜演じられているのです。

「そなた、覗いたな？」

ドキッ。

ずっとのぞいていると、シテ役がこちらに気づき、扇を広げながら、「…そなた、のぞいたな？」と声をかけてきて思わずドキリ。扇には謎のQRコードが。



QRを読み取ると、能の簡単なあらすじがまとまったキャンペーンサイトに遷移。

気になった演目のチケットを購入することが可能です。

この一連の体験によって、「銀座駅の地下深くに位置する観世能楽堂の存在」を知ってもらい、足を運んでもらうきっかけ作りに繋がります。

喜怒哀楽といった人間の感情や、神々や靈魂への畏怖。

日本人の深い部分に息づく精神性を表現し、700年ものあいだ舞われてきたのが能という芸術です。

能を鑑賞するという行為は「精神的に」日本の深い部分をのぞき見る体験とも捉えられ、

今回のある種「物理的に」日本の深い部分をのぞき見る体験設計ともリンク。

施策を通じて、銀座駅で電車を降りたすぐ下にある「観世能楽堂」の存在を知っていただき、

一人でも多くの人を訪れるきっかけを作ります。